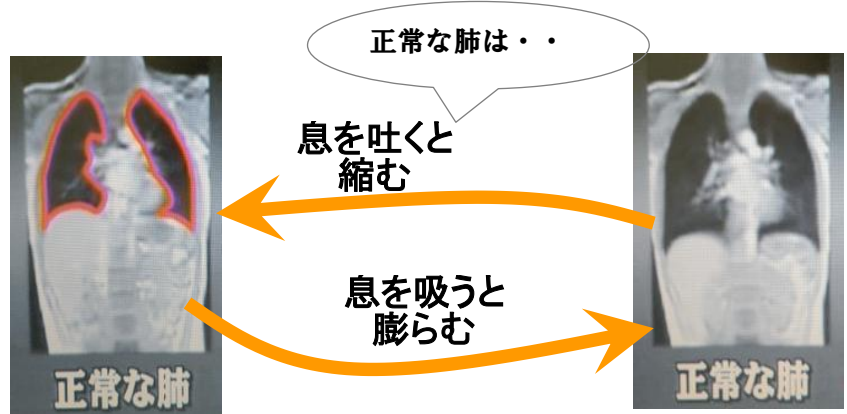


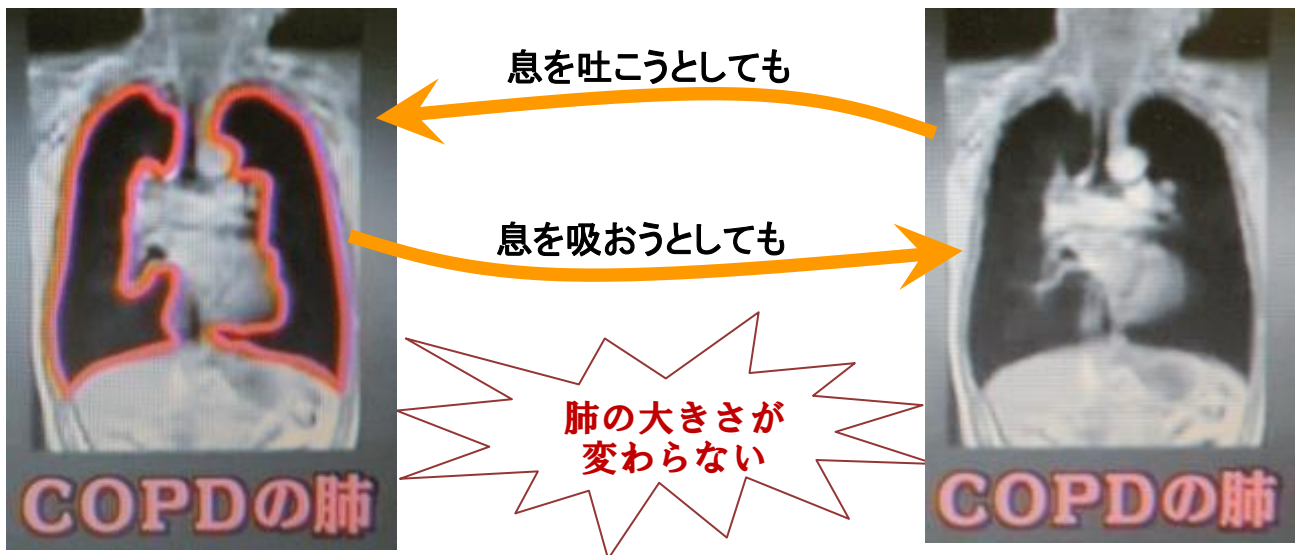
# タバコの正体

長年タバコを吸い続けた喫煙者の肺は、その有害な煙のために慢性閉塞性肺疾患(COPD)という病気にかかりやすくなります。この病気の初期は、せきやたんが増えて運動したときに息切れするなどの症状ですが、進行すると呼吸困難や日常生活が困難な状態にまでなります。

正常で健康な肺は、右の写真のように呼吸をするたびに縮んだり膨らんだりするので、息を吐いたり吸う事ができます。ところが、COPDが進行した肺では、下の写真のように、息を吐こうとしても吸おうとしても肺の大きさが変わらなくなり、十分な酸素を取り込めなくなるのです。



朝日放送「たけしの本当は怖い家庭の医学」  
必ず成功する！禁煙SP から



外出時

室内



鼻カニューラ (チューブ)



こうなると、左図のように酸素ボンベなどの装置の力を借りなければ生活できません。タバコを吸い続けると、こんな不便な日常生活が待っているかもしれないのです。

皆さんにとっては、吸い始めなければ良いだけですが、身近にいる喫煙者にもこんな危険性を教えてあげてください。

「QUPIO」HPから